

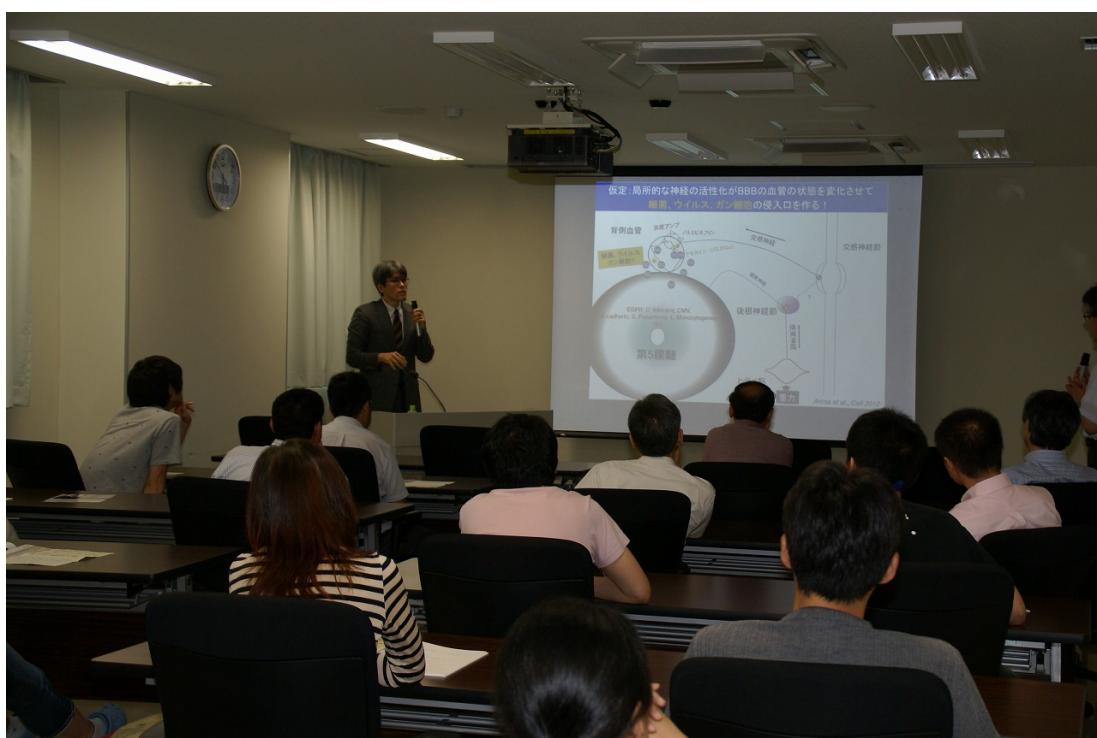
「金沢大学重点戦略経費次世代重点研究プログラムセミナー」を開催

2013年7月1日

7月1日（月）にがん進展制御研究所 4階会議室において、大阪大学大学院生命機能研究科・医学系研究科免疫学フロンティア研究センター 村上 正晃 准教授を迎え、「炎症アンプによる病気、病態の制御」と題して、金沢大学重点戦略経費次世代重点研究プログラムセミナーを開催しました。

セミナーでは、サイトカインシグナル研究の歴史から、炎症誘導の新しい概念である「炎症アンプ」の制御分子機構やがんを含む様々な疾患への関与について、最新の知見を含めてご講演を頂きました。炎症アンプの考え方をどう「がん研究」に融合させていくかを考える上で、大変有意義なセミナーとなりました。

セミナーには、所内外の研究者並びに大学院生ら約50名が参加し、とても活発な質疑応答や意見交換が行われました。



炎症アンプによる病気、病態の制御

講演者：

大阪大学大学院生命機能研究科・医学系研究科
免疫学フロンティア研究センター

村上 正晃 先生

日時：平成25年7月1日(月) 16:30～17:30

場所：金沢大学がん進展制御研究所 4F 会議室

炎症は多くの疾患に関わる生体反応です。平野俊夫先生（大阪大学）と村上先生のグループは、炎症誘導機構である『炎症アンプ』を発見し、NF κ BとSTAT3の関与など、その分子機構を明らかにして、病態との関連について研究を推進されています。最近では、炎症アンプの生理的な役割や、その制御遺伝子、標的遺伝子をそれぞれ同定されました(*Cell*, 2012、*Cell Report*, 2013)。炎症アンプは、炎症誘導を介して発がんにも深く関わる可能性があります。

セミナーでは、これらの研究結果について紹介して頂きます。皆様、奮ってご参加、ご討論ください。